Market Letter 情報提供資料

米国金融政策（2026年10月FOMC）

今会合では追加利上げを見送り

2026年10月29日

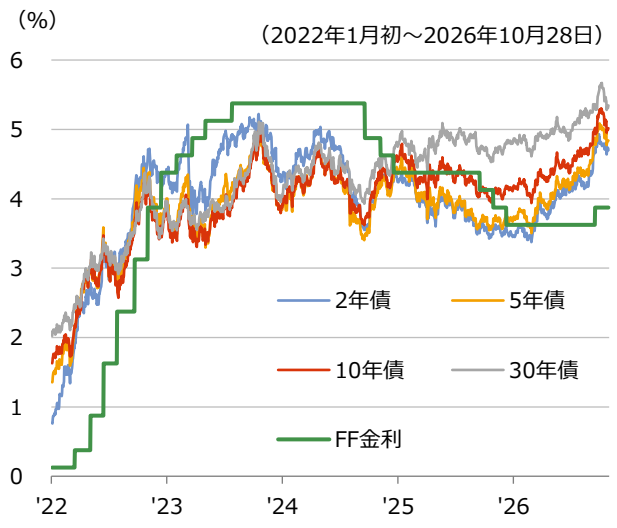
基調的なインフレ鈍化が確認されなければ12月に追加利上げへ

FRB（米国連邦準備制度理事会）は10月27日～28日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを3.75～4.00%で据え置くことを決定しました。決定に際して、2名が0.25%ptの利上げを主張し、反対しました。

今回の声明文で、インフレは「高止まりしている」、失業率は「ほとんど変化なし」との判断が維持された一方、景気判断は「堅調」から「強い」へと引き上げられました。今後の政策運営については「更なる情報の蓄積が、インフレを2%目標に速やかに戻すために適切な政策スタンスの決定に役立つ」とされ、ウォーシュFRB議長は「状況に応じて行動する用意がある」と指摘しました。12月FOMCで追加利上げが決定される可能性が高く、FF金利先物では12月の利上げが8割超織り込まれています。

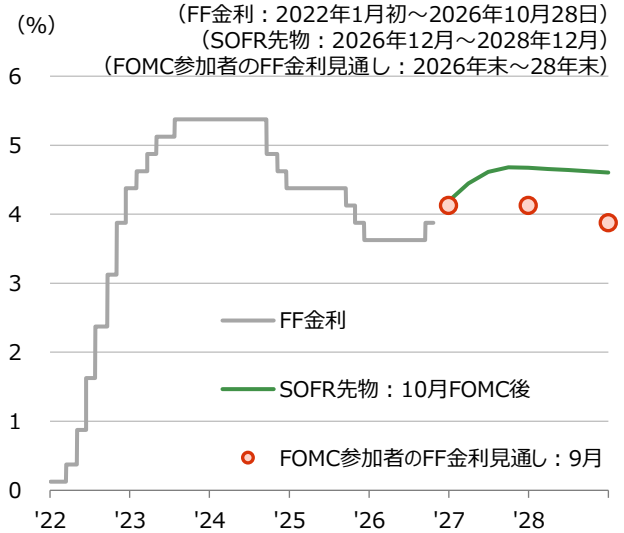
今回の決定は概ね市場予想通りとなり、市場の反応は限定的でした。前回9月FOMCでの利上げ実施以降、10年金利は一時5.3%台へと上昇、S&P500は7,700を挟んだ上値の重い展開となり、クレジットスプレッドがワイドニングするなど、金融環境は引き締まり方向へと動きました。ウォーシュ議長はおおむね予想通りの展開だったと述べた一方、現時点で「金融環境が引き締まっていると断じることはできない」としました。目先は11月3日の中間選挙が注目される中、金融政策・金利市場の観点では、今後発表の物価指標を受けて2027年の利上げ期待が12月FOMCに向けてどのように織り込まれていくかが重要となります。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
（出所）ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利　（出所）FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。